

## 第5回 四万十川流域保全振興委員会の概要

開催日時 平成17年2月23日(水) 9:00～12:00

開催場所 大正町役場2階会議室

### 1. 議題

- (1) 会長及び副会長の選出
- (2) 報告事項
  - 四万十川条例の概要
  - これまでの取り組み
  - 環境配慮指針、清流基準、目標指標
- (3) 許可基準の制度について
- (4) 共生モデル地区の取り組み
- (5) その他

### 2. 審議概要

#### (1) 会長及び副会長の選出について

会長 中越委員、副会長 アウテンボーガルト委員 を選任。

#### (2) 四万十川条例の概要、これまでの取り組みについて

- 魚種については、161種で全国1位となっているが、2位はどこで何種類か？事務局で調べて報告する。
- 「文化的な景観」については、呼称を含め、定義付けが必要ではないか。文化庁や、環境省で議論がなされている。呼称については、摺り合わせをする必要がある。
- 河川工事において、激特事業に環境配慮指針は適用されないのか。河川護岸については、環境配慮指針を適用し、石積みによる提案工法がほぼ認められた。ただし、道路路側については、例えば空石積み擁壁の安定性が立証されていないことにより、大型ブロック積み擁壁が採用されるなど、提案が認められない場合もある。
- 水質調査は、上流域の栲原川でも実施できないか。各市町村でも、条例に基づく目標指標のなかで、水質の基準を定めて測定を行っている。
- 水質調査結果については、県や市町村の結果は平均値であるため、汚濁の要因を追求できないのではないか。位置だけでなく、時間的な問題も配慮し、事業に反映できるデータとして、情報の一元化・集積を図る。

#### (3) 重点地域の指定、許可基準の制度について

建築物・工作物、看板の色彩について

- 現時点では、この流域ではしっとり落ち着いているように感じられる。したがって、もう少し厳しい基準としても良いのではないか。周りが落ち着いていればいるほど、奇抜な色は僅かなものが目立ってしまう。いわゆる原色についても排除したほうが良いのではないか。

- 流域で「ここが釣りバカ日誌の撮影場所です」という看板を見かけたが、その看板の色と共に、その看板自体に違和感を感じる。
- 公共の色彩に対しても、配慮を求めないと、民間に厳しく公に甘いと思われるのではないか。
- 白い色については、ガードレールの例があるように景観を壊す要因となる。写真をとったりする場合にも、影響がある。
- 工事中に使用されるブルーシートは、明らかに景観を壊している。例えばグレーに替えるなどすれば随分イメージが変わるのではないか。四万十で商品化されれば、全国発信できる情報となるのではないか。

(4) 共生モデル地区の取り組みについて

- 共生モデル地区の取り組みは、来年度から梶原地区についても初めてはどうか。
- 流域では様々な取り組みが芽生えており、いろいろなタイプの共生が考えられる。黒尊が終わったから次という考え方ではなく、同時多発でやって頂きたい。